日中開戦５

肥後の反撃

大石英司
Eiji Oishi

立ち読み専用

立ち読み版は製品版の1～20頁までを収録したものです。

ページ操作について

●頁をめくるには、画面上の▶（次ページ）をクリックするか、キーボード上の→キーを押して下さい。
もし、誤操作などで表示画面が頁途中で止まって見にくいときは、上記の操作をすることで正常な表示に戻ることができます。

●画面は開いたときに最適となるように設定してありますが、設定を変える場合にはズームイン・ズームアウトを使用するか、左下の拡大率で調整してみて下さい。

●本書籍の画面解像度には1024×768pixel(XGA)以上を推奨します。

挿画
安田忠幸

地図
平面惑星

目次

プロローグ　13
第一章　少年兵　20
第二章　南へ　42
第三章　釣り野伏せ　68
第四章　挟み撃ち　97
第五章　肥後もっこすの戦い　123
第六章　ＡＳＯ作戦　151
第七章　北と南で　179
第八章　ワンダウン　206
エピローグ　229

登場人物紹介

日本

《防衛省》

〈特殊部隊サイレント・コア〉

土門康平　二佐。ようやく傍若無人の上司、同期と離れ、心機一転するつもりだったが？

原田小隊

原田拓海　一尉。元は小牧基地の教育隊所属の救難教育隊救難指導員。土門に一本釣りされ小隊長に任命される。

畑友之　曹長。分隊長。冬戦教からの復帰組。コードネーム：ファーム。

高山健　一曹。分隊長。西方普連からの復帰組。コードネーム：ヘルスケア。

大城雅彦　一曹。土門の片腕として活躍。コードネーム：キャッスル。

待田晴郎　二曹。地図読みのプロ。コードネーム：ガル。

水野智雄　二曹。元水泳の強化選手。分隊長に出世した。コードネーム：フィッシュ。

田口芯太　三曹。部隊随一の狙撃手。コードネーム：リザード。

比嘉博実　士長。ドンパチ好きのオキナワン。田口の「相方」を自称。コードネーム：ヤンバル。

吾妻大樹　士長。山登りが人生だという男。コードネーム：アイガー。

姜小隊

姜彩夏　三佐。元は韓国陸軍参謀本部作戦二課に所属。司馬に目を付けられ、日本人と結婚したことで、部隊に引っ張られる。

漆原武富　曹長。姜小隊ナンバー２。コードネーム：バレル。

福留弾　二曹。鹿児島県出身で、部隊のまとめ役。コードネーム：チェスト。

御堂走馬　二曹。元マラソン・ランナー。コードネーム：シューズ。

井伊翔　二曹。姜小隊のＩＴエンジニア。コードネーム：リベット。

川西雅文　三曹。元Ｊリーガー。コードネーム：キック。

姉小路実篤　三曹。父親はロシアビジネス界の大物。コードネーム：ボーンズ。

由良慎司　三曹。西方普連から引き抜かれた狙撃兵。コードネーム：ニードル。
赤羽拓真　士長。フィールドでのゲテモノ食いに長ける。コードネーム：シェフ。
小田桐将　一士。タガログ語を話せる。コードネーム：ベビーフェイス。
阿比留憲　三曹。対馬出身。西方普連から修業にきた。コードネーム：ダック。

訓練小隊
甘利宏　一曹。元は海自のメディック。生徒隊時代の原田の同期。

〈陸上自衛隊　西部方面普通科連隊〉
中村弘臣　一佐。西方普連を率いる。
司馬光　二佐。西方普通科連隊付き教官に異動となった。
大迫勝弘　二佐。副連隊長。鹿児島県出身で、地元の私大から自衛隊に入った。
金城哲　一尉。偵察班を率いる。一般大から自衛隊に入り、たちまちレンジャー資格を取った沖縄県人。コードネーム：クイナ。

〈第一二普通連隊〉
田辺慎吾　二尉。工学部出身の二五歳。小隊を任されたばかり。
牛島茂樹　一曹。小隊長のお守り役。「シゲさん」と呼ばれ慕われている。

〔海上自衛隊〕

第一航空群
曽野太郎　海将補。第一航空群司令。
若杉秀　一佐。作戦幕僚。
若生詠美　三佐。情報幕僚。生まれも育ちも鹿屋。父親はＰ－３Ｃ乗り。娘も防大に入りＰ－３Ｃ乗りになった。

〔航空自衛隊〕
宮田弘幸　空将補。航空自衛隊第五航空団司令。垂水出身で、鹿屋の高校に通って防大に入る。池辺真とは幼なじみ。
池辺真　空曹長。要撃管制官。

第三〇一飛行隊
脇坂慎吾　二佐。第三〇一飛行隊隊長。

万田旭（まんだあきら）　一尉。兵装システム士官。

［陸上幕僚監部］

芦原義道（あしはらよしみち）　陸将。陸上幕僚監部幕僚副長。

山口諫実（やまぐちいさみ）　二佐。装備部需品課。一般大卒の経理畑。福江島出身。

［海上幕僚監部］

米納晴郎（よないはるお）　海将。海上幕僚長。

［航空幕僚監部］

藤沢一輝（ふじさわかずき）　空将。

《内閣》

阿相士郎（あそうしろう）　副総理兼財務大臣だったが、岸部真之輔（きしべしんのすけ）が総理を辞任後に新総理となった。音無に促されて、サイレント・コアの設立に関わっている。

権田均（ごんだひとし）　警視正。総理秘書官。

加藤昇平（かとうしょうへい）　官房副長官。警察庁出身。

右近公春（うこんきみはる）　内閣官房。

《外務省》

櫛田史雄（くしだふみお）　外務大臣。

石川恕（いしかわしのぶ）　中国課長。

《警察庁》

大泉学（おおいずみまなぶ）　警視監。警察庁次長。

河相鉄也（かあいてつや）　警視正。国家安全保障局に派遣中。右近公春とは学生時代からの付き合い。

馬場啓治（ばばけいじ）　警視。長崎県警本部管理官。

笹原啓介（ささはらけいすけ）　警部補。警視庁特殊急襲部隊（SAT）副隊長。

三木谷啓（みきたにけい）　警部補。特殊犯捜査第二係（SIT）。人質交渉人。

〈熊本県〉

浦島睦実（うらしまむつみ）　熊本県知事。農協職員として渡米中に学問に目覚め、ハーバードで博士号を取り帰国した変わり者。

〈歩兵第一三連隊〉

井芹奏汰（いせりそうた）　陸将。陸上自衛隊元幕僚長。

村松啓介（むらまつけいすけ）　陸将。井芹から幕僚長に任命される。
鍬田義人（くわたよしひと）　元一曹。連隊本部付き情報小隊の分隊長。水俣出身。子供は二人とも自衛隊員。

〈福岡県〉

緒川博（おがわひろし）　福岡県知事。元内閣広報官。

〈鹿児島〉

有村泰蔵（ありむらたいぞう）　鹿児島県知事。戦闘機パイロットになりたくて、防衛大学校に入った。警戒隊出身。
谷川真治（たにかわしんじ）　元一尉で秘書課に所属。

〈歩兵第二二七連隊〉

日高博（ひだかひろし）　陸将。中央即応集団司令官、また北海道で普通科部隊の連隊長を務めていた。
新留隼人（にいどめはやと）　元陸将補。幕僚長。
市丸卓也（いちまるたくや）　元一佐。歩兵第二二七連隊第二中隊を指揮する。
津曲睦己（つまがりむつき）　元二佐。
窪園啓蔵（くぼぞのけいぞう）　元曹長。市丸がもっとも信頼している下士官。

中国

［政治委員］

方建中（ファンチィエンチォン）　少将。戴志強中将とは子供の受験で確執があった。
陶景臣（タオチィンチェン）　大佐。政治委員補佐。南海艦隊から異動してきたばかり。

《海軍》

［東海艦隊司令部］

戴志強（タイチィチィアン）　中将。東海艦隊司令官。清廉潔白な人物。
孫潤生（スンルンシォン）　少将。東海艦隊参謀長。艦隊ナンバー３。
康文華（カンウェンホァ）　大佐。東海艦隊情報参謀。
徐正平（シュイチェンピン）　大佐。作戦参謀。
付弘文（フォホンウェン）　大尉。紅稗型ミサイル艇２２５５号の艇長。四川省の山奥出身。
孟暁霖（モァン イ リン）　大尉。紅稗型ミサイル艇２２４５号の艇長。
任亜平（レン ア ピン）　中尉。紅稗型ミサイル艇２２４５号の副長。ベテラン機関長。

［陸戦先鋒第 44 旅団］

顧家強（クゥチィアチィアン）　大佐。旅団長。

宋啓明（ソンチィミン）　中佐。陸戦先鋒第 44 旅団・旅団司令部付き中隊を率いる。

羅天宇（ルオティエンユイ）　六級士官。下士官を束ねる。

《陸軍》

［第 16 空挺軍団］

杜永新（トゥヨンシン）　大佐。第 16 空挺軍団第１４５空挺連隊を率いる。

邵彦祖（シァオイェンチゥ）　中佐。副連隊長兼政治将校。

孫麗麗（スンリィリィ）　中佐。作戦参謀。事実上のナンバー２。司馬光二佐の因縁の相手。

盧剣飛（リュティエンフェイ）　中佐。連隊情報参謀。

厳学海（イェンシュエハイ）　少佐。第一中隊を率いる。

旅団付き攻撃ヘリ部隊

唐君（タンチュン）　中佐。飛行中隊を率いる。杜永新大佐とは、過去何度か演習で一緒に組んだことがある。

曽昊天（ツァンハオティエン）　大尉。連隊本部付き偵察小隊を率いる。

呂語堂（リュイユイタン）　中尉。Ｚ－ 19 攻撃ヘリコプター “黒旋風”後席操縦士。

韋慕青（ウェイムゥチン）　少尉。編隊に参加した兵士で唯一の女性パイロット。

莫立城（モォリィチャン）　三級士官。

［第七戦術機動師団］

何雷（ホゥレイ）　少将。第七戦術機動師団を率いる。

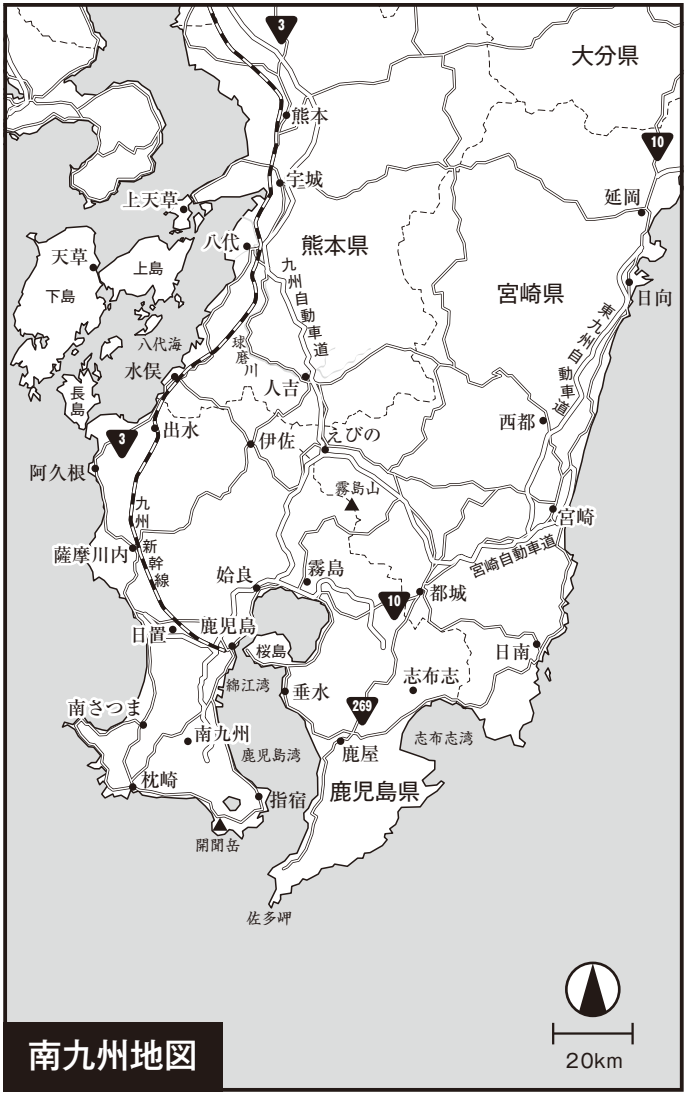
江卓（ティアンチゥオ）　大佐。参謀長。

朱琴（チゥチィン）　中尉。大学出の女士官で、通訳を担当する。

《空軍》

白衛東（バイウェイトン）　空軍中将。中国空軍九州軍管区司令官。

龍輝（ロンホイ）　中佐。


大分県
熊本
宇城
上天草
八代
熊本県
天草
上島
下島
九州自動車道
宮崎県
延岡
日向
東九州自動車道
八代海
球磨川
水俣
長島
人吉
出水
伊佐
えびの
西都
阿久根
霧島山
宮崎
九州新幹線
薩摩川内
姶良
霧島
宮崎自動車道
都城
日置
鹿児島
桜島
日南
志布志
綿江湾
垂水
南さつま
南九州
鹿児島湾
鹿屋
志布志湾
枕崎
指宿
鹿児島県
開聞岳
佐多岬
3
10
269
20km

南九州地図

日中開戦5　肥後の反撃

プロローグ

九州新幹線の、そのトンネルとトンネルを結ぶ高架部分の長さは、凡そ四〇〇メートルあった。

周囲は見事な茶畑のはずだったが、一晩降り続いた桜島の灰のせいで、今は一面真っ白。

上空からは、どこが畑で、どこに新幹線の軌道があるのかも判別しにくい状況だ。

二機のCH－47JA大型ヘリを操縦するパイロットたちは、高架部分を確認するために、何度もGPSマップを見なければならなかった。

地面はわかった。なぜならパラシュートの兵士達がそこに降りていたからだ。

空一面を、無数のパラシュートが覆っている。

パイロットは、兵士らが地面に降りきるまで待たねばならなかった。下手をすると、真上から降ってきたパラシュートがローターに絡まり、墜落する羽目になる。

二機のヘリは、まだ真下でパラシュートが萎みきらない前にその高架部分に突っ込み、後部のランプドアを、高架の側壁部分に引っかけるような感じでホバリングに入った。

高架の上に着地した敵のパラシュートが、激しく暴れている。今にもローターに巻き付きそうなところを、味方が慌てて駆け寄り、たぐり寄せるようにして畳んでくれた。

機体を銃弾がビシバシ叩きはじめたが、それは一瞬で収まった。

なぜなら、ローターが巻き起こす爆風が、地面に降り積もった大量の火山灰を巻き上げて敵味方から視界を奪ったためだ。

その火山灰は、機体から高架の軌道上に飛び降りる隊員にしても、足下の真下のレールがどこにあるのか見せないほどの量だった。

「着地後散開！　ただちに散開――！」

だが隊員たちは、背後からどやされながら次々とその白煙の中に飛び降りていく。

最後に重量物のコンテナが降ろされると、ヘリはその場にほんの三〇秒留まっただけで離陸していった。

後には、まるでスモーク・グレネードを焚いたような濃い煙幕と、地上の銃撃音だけが残された。

ヘリが飛び去ってしばらくすると、視界が拓けてきた。

高架部分のあちこちでは、側壁沿いに土嚢が積み上げてある。外側からは見えないが、いつでも積み上げられるよう置かれたものらしい。

義勇兵があちこちで、その土嚢をピラミッド形に積み上げていたようだ。

「よし！　高架を死守するぞ――」

特殊作戦群隷下の特殊部隊サイレント・コアの一個小隊を率いて来た原田拓海一尉は、爆煙が収まると、ヘッドセットで全員に命じた。

「高架の両側を漏れなく守れ！　敵は、親の仇とばかりにここを襲ってくるぞ！」

ナンバー2の畑友之曹長も、すぐさまどやしつける。

すでに側壁の何カ所か、敵のRPGロケット弾の攻撃で孔が開けられていたのだ。

地形はありがちな扇状地。普段は長閑な茶畑

だ。それが今や敵味方入り交じる白兵戦の戦場と化していた。

「いいか、山側にも敵は降りたぞ！　高山分隊は北側、大城分隊は南側を守れ！　俺が中央を守る。リザード・ヤンバル組は、ただちに狙撃を開始せよ！」

リザードこと田口芯太三曹とヤンバルこと比嘉博実士長は、義勇兵が土嚢を積み上げる隣で、狙撃ポジションについていた。

ＲＰＧが開けたらしい直径一〇センチほどの小さな孔があった。

田口は、その孔の手前から、銃口が孔の外に出ないよう注意しつつ、ＤＳＲ－１狙撃銃を構える。

あくまでも銃眼であり、そこから銃口を出したら、的になるのがおちだ。

「どのくらい降りてきたんだ？」

田口は、レールを跨いで山側を偵察してきた比嘉に聞いた。

「山側は数十。五〇はいるかもしれないが、一〇〇は絶対にいない。でも海側は……」

そう言いながら、比嘉は側壁から頭だけ出して観察した。

「こっちは二〇〇くらいかもしれないですね……」

「いや、俺が知りたいのは、全体でどのくらい降りてきたかってことさ」

「二〇〇〇とか三〇〇〇とか、そんなものじゃないですか？　どのみち、山越えはそう簡単にはできない。ここの敵を片付けたら、少しは余裕が出るでしょう」

「そんな数で済むはずはない。こっちの義勇兵の数を考えれば、その程度で降りてくるのは自殺行為だろう。俺は、万はいると思うぞ」

「そんな数が降りられる空き地はないでしょう」

地上のあちこちで、茶畑にパラシュートが引っかかり、それが敵味方双方に対して目隠しになっていた。互いが、まるで迷路の中で突然敵と出くわすような状況になる。

茶畑では酷い混戦と混乱が生じていた。

そんな中で、自衛隊も中国軍も少しでも見張らせる場所を確保しようと、高い場所へと移動していくのだ。

田口は、その双方の動きの中で、孤立している味方を見付けた。孤立している理由は、明らかにその重たい装備にあった。対戦車小隊だ。

正面右手の藪を目指して移動していたが、装備が重いせいで、降りてきた敵の空挺にあっという間に包囲されている。ここからほんの一〇〇メートル少々の距離だった。

田口は狙撃銃を置くと、「カバーしろ！」と叫びながら、護身用のＭＰ７Ａ１を手に取った。

サプレッサーを装着した上で、上半身を側壁から乗り出し、やや見下ろすように、味方に迫る敵を狙撃する。

そこから一〇メートルほど離れた場所では、比嘉がＧＭ６リンクス対物狙撃ライフルを撃ちはじめた。その発砲音で、こちらは目立たなくなる。

田口は、ダブルタップで確実に敵の息の根を止めた。こういう状況下では、負傷程度に留めると最後の反撃で味方が犠牲になる恐れがある。

敵の銃撃が比嘉に向かってきた。

比嘉が首を引っ込めるまでのほんの一〇秒の間に、田口は六人を倒す。

驚いたことに、味方の対戦車小隊は、子供を抱えて逃げているようだ。

その子供たちも、何らかの荷物を抱えている。

そして、その対戦車小隊を守るように義勇兵が三方から集まってきた。

味方はふいを衝かれたものの、状況を立て直しつつあるように見えた。

「にしても、この灰は酷いな……」

と比嘉が瞼をぱちぱちさせながらぼやいた。

一度舞い上がった灰は、容赦無く全身に降り積もってくる。

海側に目を向けると、二〇〇メートルほど海側を走る在来線の法面で、義勇兵がさかんに発砲していた。

凄まじい光景だ。そこら中に死体が弾避けとして積み上げられ、撃破された戦車は焼け爛れ灰を被ってオブジェと化している。

そして、パラシュートをリリースする間もなく撃たれ絶命した兵士が風に引きずられ、茶畑の中をまるで操り人形のように歩いていく。

味方がそれに十字砲火を浴びせ、最後には皆、肉の塊と化して枝に引っ掛かるのだ。

風が吹いた時は、それがパラシュートごと舞い上がり、上空をふわふわと漂っていく――。

壮絶な〝戦場〟が目の前にある。

一昼夜繰り広げられた激戦で、日中双方に六〇〇名前後もの戦死者が出ていた。

中国からの修学旅行生を乗せた旅客機のハイジャック爆破事件に端を発した日中の戦争は、八日目を迎えようとしていた。

中国軍は、最初、五島列島の福江島に降下して占領し、そこを足がかりに長崎へと上陸。

佐世保を目指し大村湾沿いに北上したが、自衛隊側の、被害を最小に留めて効果的な打撃を与える戦術に夥しい犠牲を払う羽目になった。

だが、関門橋とトンネルを破壊して陸からの九州への補給路を断った後、陽動の第二戦線を構

築すべく、今度は熊本（くまもと）の八代（やつしろ）へと部隊を上陸させる。

南回りに進撃し、洋上からの補給を絶ちきって九州を完全に孤立させる作戦をとったものの、上陸部隊は鹿児島（かごしま）県に侵攻したところで陸自ＯＢからなる義勇兵の抵抗を受け、ここでも足止めをくらっていた。

中国軍はその兵力にものを言わせて次々と部隊を送り込み、守る側は、限られた戦力を温存して厳しい持久戦を強いられていた。

第一章　少年兵

対戦車小隊は戦車を潰すのが仕事で、歩兵を銃撃するのは歩兵小隊の役割だ。

昨夜の戦いでは、幸いにも敵兵の顔を見ることはほとんどなかった。

ドラム缶に入れた松明が焚かれ、戦車や民家が燃えているせいで、辺りはそれなりに明るかったが、それでも兵士の表情がわかる距離で撃ち合うことはなかった。

だが、今ここに降りてきた敵の兵士たちの顔は、はっきりと読み取ることができる。

自分たちと同じように迷彩ドーランを顔に塗っていたが、皆、童顔が残る若者たちだ。それが鬼気迫る表情で降りてきたのだ。

そのほとんどはパラシュートをリリースする間もなく狙撃され、絶命していった。

そして、僅かに戦闘態勢を整えた兵士達から、今度は逆にあっという間に包囲され、逃げ道が無くなった。

これまでかと思った瞬間、大型ヘリが二機現われ、高架上に陣取った味方の援護で、辛くも窮地を脱することができた。

国分第一二普通科連隊第三中隊対戦車小隊を率いる新米隊長の田辺慎吾二尉は、自分を撃とうとした敵兵士の顔を思い出し、吐きそうになった。

★ご覧いただいた立ち読み用書籍はＰＤＦ
形式で、作成されています。この続きは
書店にてお求めの上、お楽しみください。